



表紙 「いつでもどこでも
みんなですすめよう
しあわせ学習」
(板倉町公民館)

特集 学習情報提供

視 点 縄文ヒスイロードの旅で
ひ る ぼ 地域のボランティア人材の発掘を!!
サークル交流 らくらくストレッチ体操クラブ
(見附市北谷公民館)
子育てサークル (加治川村中央公民館)
素顔拝見 皆川さおりさん (新潟市)
長 敏 宏さん (真野町)

『青少年問題と公民館活動』

21世紀を担う青少年を地域でどう育てるか

去る10月29日(休)・30日(休)にわたって、風光明媚な南国桜島を遠望できる鹿兒島市民文化ホールを主会場に、第21回全国公民館研究会が盛大に開催された。遠方の地であるということ

もあり、本県からは会長・事務局長の参加であった。

今回は、研究テーマを時代の緊急課題ともなっている『青少年問題と公民館活動』21世紀を担う青少年を地域でどう育てるか」と設定し、大会第一日目は二千五百有余人の参加者が、十分科会に別れて熱心な討議を展開した。

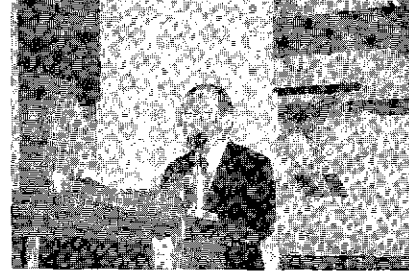
第二日目の全体会の開会セレモニーは望月哲太郎全公連会長の主催者あいさつ、文部大臣代理の社会教育課長及び鹿兒島県知事の来賓祝辞、そして地元鹿兒島市長の歓迎あいさつで終了した。今回の大会でのポイント「社会教育行政の変化に対応する公民館運営の在り方」と題してのパネルディスカッション

全体会でのパネルディスカッション

では、コーディネーターの福留強聖徳大学教授の滑らかな進行の下、パネリストの行政側占部浩一郎文部省生涯学習局社会教育課地域学習活動企画官からは、あらかじめ配布された月刊公民館10月号掲載の、平・10・9・17生涯学習審議会答申内容の関連部分についての提起・説明がなされ、学識経験者の松下誠全国公民館連合会副会長からは、全公連としての受け止め方、公振連と連動しての対応方法、全公連としてもこの問題に対応する研究組織を起ち上げ活動を開始したこと、また現場公民館代表者の吉木靖範佐賀県多久市中央公民館長からは、6点にわたって対応策について述べられ、とくに公民館は改築の時期にきているので、増改築の財政措置についての再考等の提案がなされた。

記念講演は「21世紀の地球人」と題して、脚本家の小山西美江子先生から、数々の実体験を通して国際化への協力について訴えられたのが印象的だった。

中越公連公民館職員等研修会開催



堀先生の基調講演

堀先生をお招きして実務研修主体に
◇平成10・10・2(金) 84名の参加
◇見附市中央公民館で
国学院大学教授堀恒一郎先生をお招きし、「公民館の実務と地域課題」と題して基調講演していただいた。前半は、公民館の理解に始まり、公民館活動そのもの、そして学習課題の選択。後半は、今年9月に出された生涯学習審議会の答申内容についてご説明いただいた。午後は、①公民館の原点、②公民館の実務、③地域課題の三つの分科会に別れて研究討議した。

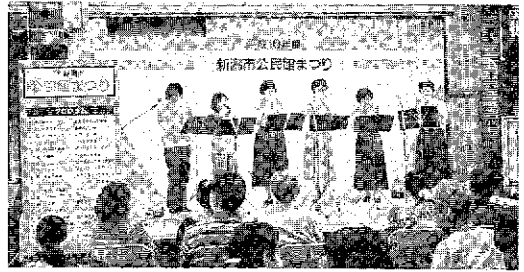
下越公連役員研修会開催



分科会討議

地域に親しまれる公民館をめざして
◇平成10・10・1(木)2(金) 260名参加
◇岩室村公民館及び「ほてる大橋」で
260名という多数の参加を得て開催されたが、初日は、第一青少年、第二家庭教育、第三高齢者、第四公連審、第五初任者の五つの分科会に別れ、夕方まで熱心な研究討議が展開された。場所を館の湯へ移しての情報交換会は、岩室村のご好意で更に研修を深めることができた。第二日目の、「先達に教わったこと」と題しての本間泰先生のご講演は、参会者に大きな感銘を与え、無事終了した。

古町モールで公民館まつり —街頭へ打ち出た新潟市公民館— 平成10・9・27(日)



「新潟市公民館まつり」は、古町モールで盛會に開催された。新潟市中央公民館はじめ十の地区公民館による成果発表で、わら細工・タワシ作り・小物作り・木彫り・藤工芸等の体験コーナーや、ステージ上でのたるきぬた・オカリナ演奏・太極拳・三味線演奏・ハワイアンダンス等は、休日の古町通りの買い物客、散策者の足を引き留めるに十分で、各所で市民との交流がなされた。

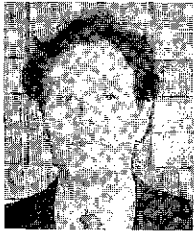
昨年、全国の生涯学習フェスティバルに引き続いて二度目の街頭発表会だそうで、成果十分の手応えだったとか。

まつりの実行委員の地区館長さんはじめスタッフの方々は、日頃の背広・ネクタイ姿を替えて、祭り法被姿で活き活きと市民に対応されている光景は、大変微笑ましさを感じることができた。そして、集まってくるのを待つのではなく、出ていく、届けにいく様子に現代の公民館活動の姿を投影していた。

視点

昨年三月末早朝のこと、青森駅から一人列車に乗り込み、津軽半島最先端の三厩村に向かった。三厩の宇鉄遺跡から出土の、数個のヒスイが埋め込まれているという土偶と対面するためである。

縄文の昔、青海地方産のヒスイが、遙か七百公里メートルの旅を経て青森の三内丸



山まで運ばれていたという事実、科学的に証明されている。はたして宇鉄の出土品がヒスイであれば、青海のヒスイは本州の最北端にまで、その距離を伸ばすことになる。世界最古ヒスイ文化発祥の地・寺地遺跡が、縄文晩期の巨大な木柱や配石遺構を

縄文ヒスイロードの旅で

渡辺 紀 一

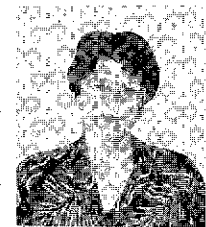
検出させ、そして縄文中期から晩期まで継続したヒスイ加工の集落跡であることは既に明らかにされている。寺地で加工されたヒスイの玉は「縄文ヒスイロード」を通過し、青森や北海道は、たまた九州

と、全国にどのようにして流通したのであろう。そして、縄文の人々がどんな思いでヒスイを用いたのだろうか。こうした思いが脳裏に

の共通点をもつ三内丸山遺跡のすべて、さらには青森・北陸・信越の縄文ヒスイを一

地域のボランティア人材の発掘を!!

加茂市公運審委員 涌井 敏子



九月、文部省の生涯学習審議会が公民館運営審議会

必置規制廃止の答申をなされた。委員構成の選出枠の細かな規定による偏り、公運審が形骸化している場合がある等の理由による設置の任意化の勧告です。賛否両論でしょうが、この勧告を機会に公民館の運営と役割について自省してみることがにしました。

公運審の議長という大役を、顧みずお引き受けして三年余りになります。その間、公民館の諮問事項「運営方針及び事業計画」「公民館施設の充実」等について、委員の活発な意見をいただきながら答申書を作成させていただきました。公民館の職員さん達は手不足にもかかわらず、答申に沿った事業を企画され、市民へ学習の場を提供し、参加者に喜ばれておるようです。

施設の充実に関しては、財政的な問題もありなかなか思うようにいかないのが当市の現状です。どこの市町村も同様でしょうが、厳しい財政状況の中で、公民館活動を活発に展開していかなければならないことに、頭を痛めておられるのではないでしようか。

偏見はなほだしい私見ですが、ボランティア人材の発掘に力を入れてみたらどうでしょうか。運営審議委員は有能なボランティア人材で、報酬金は活動資金にあてて。以前は、日本人はボランティア精神に欠けると言われておりましたが、最近では、奉仕活動に生きがいを感じておられる方々が地域に大勢おられるように思われます。「公民館活動と地域づくり」は現在、公民館の重要な役割課題と理解しておりますので、地域の有能な人材で地域に根ざした活動がされれば地域づくりの第一歩です。

地域づくりは婦人会、青少年育成団体等各種団体の共通課題と認識しておりますので、連携を保ち、住み良い地域、地域で育つ子供達をめざして前向きに取り組みたいものです。

また近頃であるが、青海人は縄文ヒスイを眺めているとなぜか心が動く、DNAのなせる技であるうかなど、つまらぬことを考えている。(青海町公民館長)

☆インフォメーション1

前号10月号第二面で「学社融合を考える」研修会に出席してと題して、当会今井昭友会長の報告記事の予告どおり、今回学習情報提供として特集してみました。

特集・編集に当たって、新潟県立生涯学習推進センター学習振興課副参事真柄正幸先生、学習相談業務嘱託員工藤信朋先生のご助言、並びに資料提供いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

供(新潟県立生涯学習推進センター)

化と活動の協働化』

における学社融合の実践

設職員研修会資料より一

1 まずは、学社連携と学社融合の違いを意識しよう

(1) 学社連携活動

■ 学校教育、社会教育のどちらか一方の目標しか達成されない活動

◎ 板荷中学校の施設を平日

夜間、第1・3土曜日の午後から夜間、第2・第4土曜日及び日曜日の全日に開放して板荷(いたが)コミュニティセンターを開設。

▽ 小・中学生の学校外活動

の充実のため、父と子の料理教室、母と子の木工教室、中学生のための着付教室、中学生の海外体験を発表する国際理解講座など、児童・生徒が多教参加する講座を開設

* 社会教育が児童・生徒の学

校外活動の充実を意図した活動例であるが、そこに展開される活動は社会教育であり、学校教育活動は成り立っていない。

▽ 小・中学校がスリム化の

ため、演劇、合唱、合奏などの表現活動を行う学校行事を削減したことを受け、コミュニティセンターでは小学生から高齢者までを受講生としたオペレッタ教室を開催。3か月に及ぶ練

習を行い、発表会を実施し、板荷地区内外から側名の参加を得る。児童・生徒の表現力が向上。

* 学校教育で育成しきれなくなった能力形成を社会教育側が担い直すことをねらった活動で、かなり学校教育との関連が意識化されているが、活動そのものは学校教育ではない。

◎ 板荷小学校に配置されたパソコンを活用して、パソコンボランティア育成と児童や地域住民への情報教育を実践。

▽ 児童のインターネット体験を支援する人材を募り、板荷小学校に配置されたパソコンを活用して情報教育を行う。

* 学校の教育機器を活用して行つた社会教育事業である。

▽ インターネット体

験学習支援ボランティアが、休み時間や放課後を使い、3か月の間に10余名の児童全員に一人20分の体験学習を提供する。

* 学校教育の場において行われたものでは

あるが学校教育活動ではない。学校という場における社会教育活動である。

▽ 板荷小学校のパソコンを使い、パソコンボランティアが地域住民にインターネット体験学習の機会を提供する。

* 学校から施設と機器の提供を受けて行われた社会教育活動に過ぎない。学校教育には何のかわりも持っていない。

◎ 学社融合活動

■ (2) 学校教育と社会教育の両者の目標が達成できる活動

◎ 板荷中学校の施設を平日

昼間開放し、板荷コミュニティセンターを開設。

▽ 授業時間中に開催されるカレッジの調理教室に中学生が参加。

* カレッジの調理教室は社会教育事業であると同時に、中学校の選択家庭科の授業でもあるので、これは学社融合活動である。

▽ 授業時間中に開催されるカレッジの木工教室に小学生が参加。

* カレッジの木工教室は社会教育事業であると同時に、小学校のクラブ活動の授業でもあるので、これは学社

◎ 石川小学校・板荷小学校における実践から

学社融合活動	学校教育	社会教育
▷ 性に関する授業の公開講座化	○ 学級活動の授業	○ 家庭教育学級
▷ 金銭教育に関する授業の公開講座化	○ 学級活動の授業	○ 家庭教育学級
▷ 社会科におけるインターネットを活用した調べ学習の実践	○ 社会科の授業	○ 学校教育支援ボランティア活動
▷ 板荷いるはカルタめぐり	○ 社会科の授業	○ 公民館のふるさと講座
▷ 読み聞かせ活動	○ 国語科の授業	○ 図書館ボランティア活動
▷ ふれあいの集い	○ 高齢者福祉教育の学校行事	○ 世代間交流事業高齢者教室
▷ 地域人材による演奏	○ 音楽科の授業	○ ミニコンサート
▷ クラブ活動の公開	クラブ活動	趣味、授業、体育等の学級講座
▷ 森林学習	○ 理科・社会科の授業、環境教育	○ ふるさと講座環境問題講座
▷ 国際理解教育の年間指導計画づくり	○ 国語科・社会科・音楽科・体育科の授業、国際理解	○ 国際交流活動国際理解講座異文化理解
▷ 生活科の指導計画の見直し	○ 生活科の授業	○ 家庭における生活指導の再点検

特集 学習情報提

『子どもを育てる方向の共有』

栃木県鹿沼市

—平成10年度生涯学習関連施設—

☆インフォメーション?

ご提供いただいた学社融合を進めていくために「学校と家庭・地域のかろやかな融合」千葉県習志野市立秋津小学校校長宮崎裕先生の発表資料は、限られた紙面のため掲載できず、大変残念でした。

また、当県社会教育推進のためご尽力いただいております、国立教育会館社会教育研修所専門研修指導主事廣瀬隆人先生の資料も、紙面で活用させていただいております。

融合活動である。

■ 学社融合活動は、学校教育では教育課程に位置づく活動であり、社会教育では社会教育計画に位置づく活動である。

2

学社連携と学社融合がもたらす成果の違いを見据える

(1) 学社連携も多くの成果をもたらす。が、しかし……

■ 学社連携の成果は、一方の教育活動がもう一方の教育活動に対する一方的サービスによってもたらされる。したがって、一方の教育活動の拡充やスリム化をもたらすが、もう一方については何の成果ももたらさない。

もう一方の教育活動に活力があれば連携はスムーズであるが、学社連携にはその活力を再生産する力がないので、やがてはもう一方の教育力が低下し、連携できなくなってしまう。

また、学社連携は一方的サービスに依存した関係であるから、もたらされる成果の大きさはもう一方のサービス度に左右される。あるいは一方がもう一方の教育力を認識し、どこまで引き出せるかに左右される。

◎ 小学校の社会科の授業においてNさんに用水堀の話を毎年お願いしている。

▽ Nさんは水利組合の役員であり、地域の中でもNさん以外に用水堀の話のできる人間はいないと定評である。

* Nさんは高齢であり、いつ教壇に立てなくなるかわからない。その不安はあるが、地域ではNさんしかいないと言われるため、Nさんにかわる人材に依頼するわけにはいかない。

* Nさんと授業の打ち合わせを毎年行っているが、「いつものように」ということになってしまい、子どもの質問に答える形式の授業にしかない。

▽ Yさんは図書館ボランティアとして学校に出入りしているが、実は国際交流市民活動家としての第一人者でもある。しかし、学校がYさんを国際理解教育で活用したことはない。

* 学校は、Yさんが国際交流市民活動家であるとの認識を持っていない。

理・運営に携わっている。

▽ S中学校では、学校職員とボランティアの話し合いが行われたことがない。

* 学校職員がボランティアを「お手伝い者」ととらえている。

* 図書館ボランティアが先生方から依頼された仕事だけを実践。

「先生方の肩代わり」と思っている。

▽ K中学校では、図書館がパソコン教室化され、図書は廊下に並べられている。

* 学校に図書室がないのだから、図書館ボランティアは導入しない。

* 図書館ボランティアが図書室がないからこそ、図書館ボランティアが必要。

◎ 高齢者とのふれあいのつどいを高齢者福祉教育として実践。

▽ ふれあいのつどいを学校が企画。

* 学校で先生方が準備に奔走。子どもが学ぶのは接遇？

* 高齢者「お客さん」として参加。

会教育の双方が共にもう一方と結び付くことすることによって成立するものである。したがって学校教育は社会教育の力によって拡充あるいはスリム化され、社会教育は学校教育の力によって拡充あるいはスリム化される。

◎ 学校での音楽学習を社会教育と融合して実践。

▽ 地域人材と音楽科の授業案づくりを行うと同時に、休み時間にミニコンサートを開催。

* 学校教育側の成果は音楽の授業の充実・音楽学習を楽しむ児童の増加・鑑賞態度の向上・教師の負担の減少

* 社会教育側の成果は音楽愛好家の活動の活性化・音楽鑑賞機会の増加

◎ 学校の授業と家庭教育学級の学習会を融合。

▽ 性に関する学級活動の授業を公開講座化。

* これまで、授業参観、学級懇談、家庭教育学級の3回で性教育を実施したが、学習後「家庭で子どもと性の問題について話し合うことができる」とした親は90%。

* 今回の実践では、通常の授業を親も学習者として迎え入れるだけで、授業後に親

(2) 学社融合がもたらす成果は「1+1=4 1+1=1」である。

■ 学社融合は学校教育、社

◎ 鹿沼市では図書館ボランティアがすべての小・中学校の学校図書館でその管

も子も100%が「家庭で親子で性について話し合える」と回答。

▽ 学校教育は学級懇談分をスリム化しながら、性教育の生活化を実現。社会教育側は学習計画立案などのスリム化を図りながら、家庭教育学級を充実。

◎ 生活科の年間計画や指導案をPTA学年部会と改善
▽ 生活科学習支援委員会による保護者の基本的な生活習慣形成に関する意識調査を実施。

* 生活科で指導する内容としている20時間分について、保護者は「学校ではなく家庭や地域で指導すること」と回答。スリム化の内容が明らかになる。

▽ 生活科の授業に保護者が参画。授業研究にも参加。
* 学校へ授業の充実。指導計画の改善・充実。生活科学習の生活化。

* 保護者へ家庭で行う基本的な生活習慣形成の指導法の習得。子ども理解や学校理解の深まり。

◎ 担当教諭と地域の国際交流グループが協働して国際理解教育を推進。

▽ 国際交流グループが主催する「モンゴルからの風」

「コンサート」を国語、音楽の授業として取り入れる。
* 学校へ負担なくして豊かな国際交流体験、国際理解教育の充実。

* グループグループの教育力の発揮。グループの存在のアピール。
▽ 国際交流グループが担当教諭の支援を受けながら国際理解を深める授業指導案づくりをすすめる。

* グループグループの教育力の向上とグループ活動の拡大。国際交流の市民活動の活性化。
* 学校へ指導案を採用することで充実した国際理解教育を展開。

3 こうすれば学社融合が成立する

(1) 学社融合を行うための条件整備

■ 必要こそが学社融合の第一条件

◎ 一方の教育力だけでは目標を達成できない場合。

◎ 双方が協働した方がより高い教育効果を得られる場合。

◎ 他者には必要でも自分には必要でない融合もある。

◎ 自分のためを考えよ
* 学校は学校教育の充実のため

ために。
◎ 家庭・地域は家庭教育・社会教育の充実のために。
■ もう一方のねらいを認め

◎ 学校は家庭教育・社会教育のねらいを理解。
◎ 家庭・地域は学校教育のねらいを理解。

■ 双方の主体を尊重せよ
◎ 「お手伝い」は禁句。
◎ 「NO!」と言える関係
◎ 話し合う場を確保。
■ 継続する意思と中止する勇気を持つ

◎ 継続の意思と力は「よさ」を見ることから生まれる。
◎ はじめの負担増はあたり前。これは中止の理由にはならない。
◎ 継続的な負担増は中止の理由。

(2) 学社融合を具体化する手法

■ 教育計画を協働して策定

◎ 地域教育会議を組織化。
◎ 教員と地域人材で学習支援委員会を組織化。

■ 成人を協働者としての指導者として学校教育に迎え入れる

◎ 授業を教員と指導者となる地域人材で共同研究・実践。

■ 成人を学校教育の学習者として迎え入れる

◎ 授業の公開講座化。
◎ 保護者を学校教育支援ボランティアとして迎え入れる。

■ 児童・生徒を社会教育講座の受講者、社会教育活動の参加者として迎え入れる
◎ 授業として認定される社会教育講座を計画化。

◎ 地域活動・行事を授業として取り入れる。
■ 学校と家庭・地域で一貫した教育活動を展開
◎ 地域における児童・生徒の教育活動全体計画を策定

し、役割分担を行う。
4 学社融合は学習「ミニユニティ」形成の決め手

(1) 学社融合で地域の学習活動が活性化
■ 学校教育の充実とスリム化を達成
■ 家庭教育・社会教育の活動が学校でのボランティア活動を通して活発化



山本恒夫氏 (筑波大学教授) の示した学社融合のパターン

① 学校教育、社会教育の重なる部分に新しい教育活動をつくり、それを学校教育では学校教育の一部として取り込み、社会教育もそれを社会教育の一部として取り込む。

例 地域に中学生から成人までを含む文化・スポーツのクラブを新設
学校はその活動を部活動と認める。教育委員会はそれを社会教育関係団体として支援

② 学校教育と社会教育の既存の教育活動の一部を取り出して組み合わせ、これを学校教育でもあり、社会教育でもあるとする。

例 学校の林間学校と社会教育のサマーキャンプを合体林間学校でもあり、サマーキャンプでもあるとする。

③ 学校教育あるいは社会教育として行われている活動をそのまま両者共有のものとする。

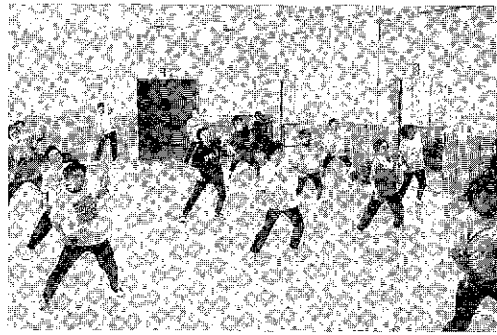
例 英会話教室のうち、学校側が認めるものを英語の授業への出席時間に加える。

サークル交流

体と心の健康は仲間の輪とダンベル体操から

見附市 らくらくストレッチ体操クラブ

皆様の中で、市の検診の時や医師から食事に関心をつけなさい、歩きなさいと言われても、一人でどうしてよいのかわからなかったことはありませんか。皆の不安の声を聞いてなんとかしなくてはと、市の保健婦さんが週一回いきいき健康体操教室講座を開いて下さいました。保健婦の北村さんと栄養士の山谷先生からは、成人病と食事



の話、その後には稲田先生からは、体と心のためにとダンベル体操を、講座は十一回で終り、その後らくらくストレッチ体操と名前を替え、毎週月曜日午前十時から十一時迄、ミニダンベルを両手に持ち軽快な音楽に合わせて手足を動かしています。

ダンベル体操は、年齢に関係なく、誰にでも、いつでも、どこでもできます。現在会員は、四十人、平均年齢は五十五歳位です。体操で体をダイエットし、心をつフレッシュしながら、仲間作りをしませんかと呼びかけています。

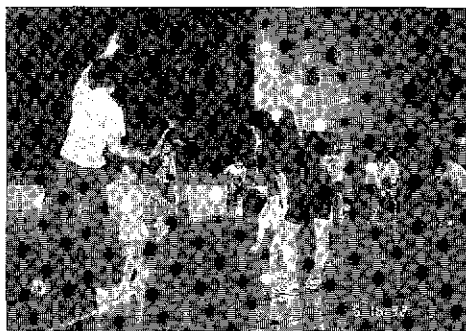
(同クラブ 山口かづ子 記)

子育て支援ネットワーク

加治川村子育てサークル

「一人で悩まず楽しく子育てができるといいですね。」こんな母親の願いから、加治川村に3つの子育てサークルが生まれました。また、少子・高齢化が顕著に現われ、隣り近所の子供が自然に集まって遊んでいる、という光景は珍しくなっていました。

こうしたことから、子供同士、の拘わり、母親(おばあちゃん)



同士のつながりを深めていくために、今年度から子育て支援ネットワーク作りが開始されました。3つのサークルが独自に活動することはもちろんのこと、主任児童委員が中心となった合同の活動も行っています。

週に一度の児童館での自由遊び、プロのインストラクターによるエアロビクスの講習、エプロンシアターの見学、水遊び、ハイキング等、さまざまな楽しい活動を行っています。11月には、発足記念行事としてマジックショーの観覧も予定しています。

このような子育てネットワークを通して、子供たちが明るく健やかに育つことを願っています。

(同事務局 大川原さとみ 記)

新潟市関屋地区公民館

主事 皆川さおり さん

彼女は、新潟市役所職員採用から五年半の勤務年数で、公民館は異動二回目の職場です。

関屋地区は市の中心市街地で交通の便も良く、利用者数も多く、日頃は四人の職員がてんてこ舞いの勤務状況です。



担当するのは、家庭教育力の充実、地域教育の活性化

素顔拝見

真野町教育委員会

主任 長 敏宏 さん

なんと書いたらいいのかわからない、笑いなから、「ハンサムで、仕事はバリバリでき、若い女性の憧れの的である。」と書いて下さいと言う。写真を見ればすぐ分かることだが、そういえば、婦人会等の面倒見が良く、お婆ちゃん達からよく感謝されていることがある。

彼は、私の就任と一緒に教育委員会に異動し、社教主事の資格をとり、今年で六年目、教育委員会と公民館の兼務をしているが、昨年から公民館の主事と

等々十一事業を受け持っています。特に小学生向けのわくわくランドや夏休み合宿体験は、子供達から彼女はやさしく頼りがいのある美人お姉さんとして慕われています。また成人向け登山教室では彼女はスマイルで登山経験が無いのに、浅草岳や平標山にすいすい登ってベテランメンバーをアツと言わせたとか、彼女は現職三年目の若手ホープ職員ですが、人への思いやりと親切丁寧な仕事振りに、誰もが感心しております。

(新潟市関屋地区公民館 丸山 孝治 記)



なったベテラン職員です。農協に務めてい

るベッピンさんの奥さんと、高二、中二の男児二人と、母親との五人家族の堂々たる父親です。彼は一見静かで温和で思慮深い性格に見えるが、中に激しいものを秘めているように見受けられます。早くこれを爆発させ、マンネリ化に陥りつつある公民館に活を入れてもらいたい。

(真野町公民館長 名畑 實 記)

恵贈資料紹介

平成9年度家庭教育開設事業

家庭教育資料第34集

五泉市教育委員会



この研修記録誌は、下越地区社会教育主事等会研修での、五泉市派遣社会教育主事池藤仁市先生の発表資料の一部です。

制心・自立心等生きる力の基礎的な資質や能力を育んで行う家庭教育的な役割を果たす」とし、今年度は「子どもの成長に応じた親のあり方はどうあればよいか」を研究テーマに設定、参加者を成長学年毎に3分科会に分け、研究討議した記録と、そして締めめの講演は「電話の向こうの悩みと不安、そして親の願い」と題し、下越教育事務所いじめ・登校拒否相談員の中村保夫先生から、現在の児童生徒の悩み不安の訴え、解決への手立てについてお話しいただいた記録です。



五泉市教育委員会

恵贈資料紹介

ふれあい学びあい育ちあい

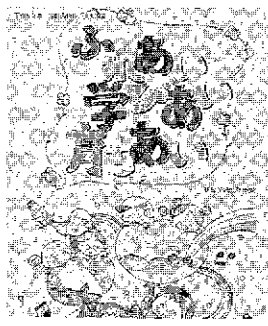
平成9年度家庭教育力充実事業

新潟市東地区公民館

冊子の標題は、梶瑤子前館長の巻頭のあいさつのネーミングから由来しているようです。とても柔らかく心あたたまるしかも親しみやすく身近な標題で、読み手をひきつけてくれます。

父親のための家庭教育出前講座の六つで構成されており、その中でも特徴的な柱は、ネットワーカークの派遣で、地域の幼稚園等へワーカークを派遣し、親子遊びや本の読み聞かせ等で効果を挙げているとか。幼稚園という枠を超えての人間関係ができ、子どもらにとっても新しい発見や楽しい出会いがもたらされておるようです。

③ふれあい交流事業 ④お年寄りの知恵袋講座 ⑤子育てグループの家庭教育学習活動 ⑥



写真、カット、吹き出し、表等ふんだんに使用され、大変読みやすく工夫されております。

十日町青年学級

50周年記念集会開催さる!!

◆平成10・10・25(日) ◆於クロス10



増田実行委員長のあいさつ

昭和23年青年講座として開設以来50周年を迎えた十日町青年学級は、数々の成果、業績を残して今日に至っている。

記念集会当日は、好天にも恵まれ、多数のご来賓、講師、青級OB・OG会員が参席、その数30名余にも達した。創設時の水月寺における記念碑除幕式、クロス10における記念式典・祝賀会は、50年の歴史を語るにふさわしい充実した内容であった。紹介されております。

あとがき

◆吉報1 新潟市坂井輪地区公民館囑託小田雅子様の「ジェンダー学習への取組」実践レポートが、月刊公民館9月号に掲載

表紙解説

この春、板倉町民会館の正面に大きな看板がかかりました。マナビイが、町の生涯学習推進目標「いつでもどこでも みんなですすめよう しあわせ学習」と行き交う人に呼びかけています。

(板倉町公民館)

発行所 新潟県公民館連合会
〒951-8053
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【TEL・FAX (025)224-6073】
発行人 会長 今井昭友
編集人 事務局長 鈴木友夫
【定価1部150円 年共1,800円】